

会議結果報告書

令和7年 6月 3日

会議の名称	令和7年度 第1回舞鶴市部活動地域展開推進会議	
種別	☐ 附属機関 ☒ 懇話会等	
開催日時	令和7年5月20日(火) 午前10時～午前11時45分	
開催場所	舞鶴市役所 本館4階 議員協議会室	
出席者	舞鶴市部活動地域展開推進会議委員 11名	
議題	(1) 舞鶴市の部活動地域展開について ● 舞鶴市が目指す地域展開 ● 令和6年度までの取組 ● 令和7年度の事業 (2) 専門部会について (3) 意見交換	
公開の区分	☒ 公開 ☐ 部分公開 [理由]	
傍聴者数	4名	
審議結果 及び 主な意見等	● 専門部会を設置し、各部会へオブザーバーとして推進会議委員が1～2名参加することとなった。 【主な意見】 ● 子どもたちそれぞれが選択出来る環境を作っていけたらいい。 ● 生徒が減少する中、学校単位だけ、中学生だけで活動を継続することは困難であり、多世代による仕組みを考える必要がある。中学生を持つ保護者だけでなく、他の層へのアプローチもしてほしい。	
会議録の作成様式	☐ 詳細 ☒ 要約	
備考		

担当課	舞鶴市 教育振興部 教育未来課 TEL (0773) 66 - 0028
-----	---

令和7年度第1回舞鶴市部活動地域展開推進会議 議事録

日 時：令和7年5月20日（火）午前10時～午前11時45分

場 所：舞鶴市役所 本館4階 議員協議会室

【出席者】（敬称略）

井上 泰正 （舞鶴市中学校体育連盟）
采女 真理 （舞鶴市PTA連絡協議会 副会長）
白田 誠 （舞鶴市スポーツ推進委員連絡協議会 会長）
鈴木 俊治 （舞鶴市中学校校長会）
鈴木 元 （舞鶴ちゃったスポーツクラブ 会長）
高橋 てる恵（公益財団法人舞鶴文化教育財団 理事）
田中 重春 （TOMA I クラブ 代表）
長積 仁 （立命館大学 スポーツ健康科学部 教授）
森 隆 （舞鶴市スポーツ少年団 本部長）
山下 博伸 （舞鶴市教育委員会 指導理事）
渡辺 弘 （一般財団法人舞鶴市スポーツ協会 会長）

【欠席者】（敬称略）

田中 美香子（舞鶴文化協会 副会長）

【事務局】

教育委員会：6名

生涯学習部：5名

【傍聴者】4名

会議録：

1. 教育長から開会挨拶

2. 会長・副会長の選出

長積会長、鈴木（俊）副会長を選出。

3. 議事

(1) 舞鶴市の部活動地域展開について…事務局から説明

主な意見等は以下のとおり

- 市立中学校だけでなく支援学校の生徒も関われる仕組みが必要。
- 文化クラブが発表できる場が大事

- 小中高それぞれ活動時間が違う活動をどのように組み合わせるかというハードルはあるが、連動していくことが大事。
- 部活動の地域展開により働き方改革をしても、新たな放課後活動が入ると誰か教員が担わなければならないのではないかと。5時に退勤することができれば、それぞれの教員が、自分の得意種目の指導員として活躍することが出来るが、拘束時間が長い状態が続くのであれば指導者として関わることは困難だと想像する。
→（事務局）平日の活動については、今後いつ展開するか時期は明示していないものの、まずは学校の創意工夫に任せて試してもらいたいという思いで実施している。地域展開を進めることで副次的に教職員の働き方改革につながるとは思っており、そこが妨げられるようなことがないようにしたいと思っている。
- いろいろ不安はあるが、やっていく中で考えていくしかない。子どもたちそれぞれが選択出来る環境を作っていけたらと思う。
- クラブ（学校）によっては顧問の先生が全く来ないといった環境もあるように聞く。学校がそうした状況であると、協力的な思いになりにくい。
- 地域展開の取組は、国からトップダウンで下りてきて、まったくボトムアップが無い状況の中で進んでいると感じており、このままで本当に成功するのか危惧している。
→（長積会長）「国が言ってきたから」は取っ掛かりであり、舞鶴市の取組は、子どもたちの環境を作るためにやっているものである。
- 国は、本当に地域展開が実現できると考えているのか。京都府内では8自治体（府内の1/3自治体）しか取り組んでいないが、本当に進んでいくのか。
→（長積会長）国の役割は大きな方針を出すこと、都道府県は各市町の取組を後押しすること。とはいえ、都道府県が各市町の財源を確保することは現実的ではない。各自治体で創意工夫していく必要がある。
- 生徒が減少する中、学校単位だけ、中学生だけで活動を継続することは困難であり、多世代による仕組みを考える必要がある。中学生を持つ保護者だけでなく、他の層へのアプローチもしてほしい。
- 地域クラブ文化祭は、3年生の参加を考えると3月ではなく春頃の実施が望ましいのではないかと。
→（事務局）R8は実証事業として取り組む中でのスケジュール設定。あり方については今後、磨いていく。

(2) 専門部会について…事務局から説明

主な意見等は以下のとおり

- こういうやり方で進めていただければ上手くいくのではないかと。
- 特に、「運営体制部会」での議論がしっかりとまとまれば、全体としてうまくいくのではないかと。

- これまでから会議を繰り返しているが、進んだ気がしていない。こうした状況の中で、専門部会に別れて議論する方法で良いのだろうかと感じている。
→（長積会長）これまで議論し積み上げてきたものは「地域展開推進計画」として整理されている。
- 具体的に進めていかなければいけない中で、3部会で議論されるのは有効。
- これまで実証事業をやってきた中で出てきた課題がたくさんあると考えており、それらをしっかりと整理する必要がある。
- 一人でも多くの子どもたちを巻き込んで、少しでも多くの大人が子どもたちに関わる環境を作ってまいりたい。また、部会で関わっていただいたメンバーを離さないための仕組みも考えていくとよい（関係人口のようなイメージ）。
- 移動はもとより、指導者の質の確保など様々な不安があったが、3つの部会が組まれている姿を見て安心した。
- 何かを進めて行くときにはチャレンジしてみないといけないとは思っているが、「令和8年度2学期以降の中体連出場」という点は非常に大きな課題だと感じている。令和8年度の夏以降、部活動が無くなる中で、子ども達の満足度が確保出来るのか。そもそも中体連を抜けることは出来るのか。など、不安な点が多数ある。
→（事務局）平日の部活動が残るので、すぐに中体連の大会に出ないとか、脱退するとかいう話にはならない。子どもたちに不利なことにはならないよう、現在校長会とも話し合っている。
- 各協会が持っている大会を土日に開催することは可能なのか。
→（事務局）学校としての出場に限るのか、地域クラブとしての出場も認めるのか、各団体が出場条件をどのように設定するかが大事。各協会が持っている大会を土日に開催することは可能なのか。
- 会場確保、指導者確保、移動手段、受益者負担のことが保護者の声としてよく聞かれたことであったため、運営体制、指導、活動促進の専門部会ができ、課題を焦点化できることは大きい。子どもの活動環境を整えていくためには、指導者、保護者、教員への連携と丁寧な説明、舞鶴市立中学校生徒以外でも参加できる環境を検討することが大切であると思う。
- 地域展開はますます進んでいくと思う。進めば進むほど、子どもたちの満足度を高めていかなければならない。子どもたちが最も多感な時期に、地域の方とつながる経験、そして心が動く経験を持たせていくことが大事。子どもたちの主体性を育んで行くための一つの手段が部活動であり、長い目で見ると、手段は変わっていく可能性もある。

〈各部会のオブザーバー選定について〉

- ①運営体制部会 田中（重）委員 鈴木（元）委員
- ②指導部会 白田委員 高橋委員
- ③活動促進部会 采女委員（オブザーバーだけでなく委員として入っていただく）

4. 意見交換
 - ・十分な議論ができたため特になし
5. 生涯学習部長から閉会挨拶

(了)